

2022年9月期 第3四半期 決算説明資料

2022年8月

フィンテック グローバル株式会社

(東証スタンダード市場 : 8789)

<https://www.fgi.co.jp/>

目次

総括	2
連結業績概況	3
四半期連結業績推移	4
セグメント別業績	5
投資銀行事業セグメントー業務別売上高、売上総利益	7
エンタテインメント・サービス事業 業績等	8
投融資残高の推移	10
受託資産残高の推移	11
公共コンサルティング事業 取引先団体数	12
メッツアビレッジの更なる価値向上への取り組み	13
連結財務諸表	14
連結経営指標等の推移	16
会社概要	17

**第2四半期までに実行した投資の回収が進み、業績は進捗。営業損益は黒字に転じる。
通期業績予想値に対し利益面の進捗は遅れているが、
第4四半期予定の複数案件の実行による更なる業績進捗を見込み、予想値は変更せず。**

**プライベートエクイティ投資（PE投資）、航空機アセットマネジメント（航空機AM）が好調。
STOについては合併契約を締結し、推進体制を整備。**

- ・第2四半期までに投資実行したPE投資案件について、当第3四半期に回収が進む。
人員増強、外部委託の拡充などリソースを投入して複数案件を同時並行で進めており、第4四半期に更なる業績進捗を見込む。
- ・航空機AMは好調が続く。
- ・(株)岡三証券グループ、(株)あおぞら銀行、(株)ADワークスグループとセキュリティ・トークン事業等のデジタル証券ビジネスの発展を目指すための合併契約を締結し、岡三デジタル証券準備(株)に出資。STOを活用したビジネス機会創出を目指す。

**メッツアは、行動制限緩和により来園者数が増加。
セグメント損益は黒字化するも、第4四半期は感染急拡大により来園者数は減少傾向に。**

- ・メッツア来園者数は、感染症拡大の影響が続いた前期に比べ1.9%増加。（4-6月期は15.7%増加）
第4四半期は感染症急拡大により集客に影響を及ぼし、来園者数は減少傾向。
- ・ライセンス関連は、ライセンシーのムーミン商材の取扱高が拡大し、増収。

連結業績概況

(単位：百万円)

	2021年9月期 第3四半期累計	2022年9月期 第3四半期累計	増減額	増減率	通期業績予想 2021/11発表	業績予想 進捗率
売上高	6,410	6,749	338	5.3%	8,000	84.4%
売上総利益	2,846	2,680	△ 165	△ 5.8%	—	—
営業利益	465	150	△ 314	△ 67.7%	450	33.4%
経常利益	437	114	△ 323	△ 73.9%	300	38.0%
親会社株主に帰属する 四半期（当期）純利益	319	△ 140	△ 460	—	100	—
償却前営業利益	954	575	△ 378	△ 39.6%	—	—

・償却前営業利益 = 営業利益 + 売上原価・販管費に含まれる減価償却費及びのれん償却費

収益認識会計基準等適用による影響

メツアでの物販の一部が消化仕入のため、従来の会計処理方法に比べて売上高・売上原価がそれぞれ63百万円減少。売上総利益、営業利益、経常利益、税金等調整前四半期純利益に与える影響はない。

売上高

PE投資案件の組成・投資実行・回収が順調に進む。
航空機AMが好調を維持し、アセット投資の回収も増加したことにより増収。

売上総利益

メツアの収益性が改善するも、原価率が低い業務受託とPE投資の売上減少により減少。

営業利益

販管費は事業拡大に伴い6.3%増となるも、4-6月期の投資銀行事業の売上拡大とメツアの収益性改善により、当第3四半期から黒字に転じる。

親会社株主に帰属する 四半期純利益

ムーミン物語の損失減少によって非支配株主に帰属する四半期純利益が前年同期比253百万円改善し185百万円となった結果、親会社株主に帰属する四半期純利益にマイナスの影響が発生。（P15参照）

連結業績予想

各段階利益の進捗が遅れているが、投資銀行事業において複数案件の実行を第4四半期に予定していることから、予想値を変更せず。

四半期連結業績推移

当第3四半期（4-6月期）に業績が大きく進捗

（単位：百万円）

	2021/9期						2022/9期				前Q3比 増減額 (増減率)	前Q3累計比 増減額 (増減率)
	Q1	Q2	Q3	Q3累計	Q4	Q4累計	Q1	Q2	Q3	Q3累計		
売上高	2,020	2,854	1,536	6,410	1,696	8,107	2,272	2,148	2,328	6,749	✓ 792 (51.6%)	338 (5.3%)
売上総利益	825	1,558	462	2,846	524	3,370	897	712	1,071	2,680	✓ 609 (131.8%)	△ 165 (△ 5.8%)
営業利益	53	787	△375	465	△287	178	62	△102	190	150	✓ 565 (-)	△ 314 (△ 67.7%)
経常利益	9	821	△393	437	△321	115	39	△91	165	114	✓ 559 (-)	△ 323 (△ 73.9%)
親会社株主に帰属する 四半期（当期）純利益	△63	681	△298	319	△189	130	△47	△155	62	△140	✓ 360 (-)	△ 460 (-)
償却前営業利益	224	962	△232	954	△136	817	213	49	313	575	✓ 545 (-)	△ 378 (△ 39.6%)

・ 償却前営業利益 = 営業利益 + 売上原価・販管費に含まれる減価償却費及びのれん償却費

セグメント別業績 - 1

- ・投資銀行事業では、前期はQ2にPE投資案件が集中したが、当期は案件数増加により各四半期で安定的に案件獲得が進む。
- ・公共コンサルティング事業は、財務書類作成等支援や公共施設等総合管理計画の見直し支援が増加し62.7%の増収。
- ・エンタテインメント・サービス事業は、リニューアル等による固定費削減により、収益性が改善。

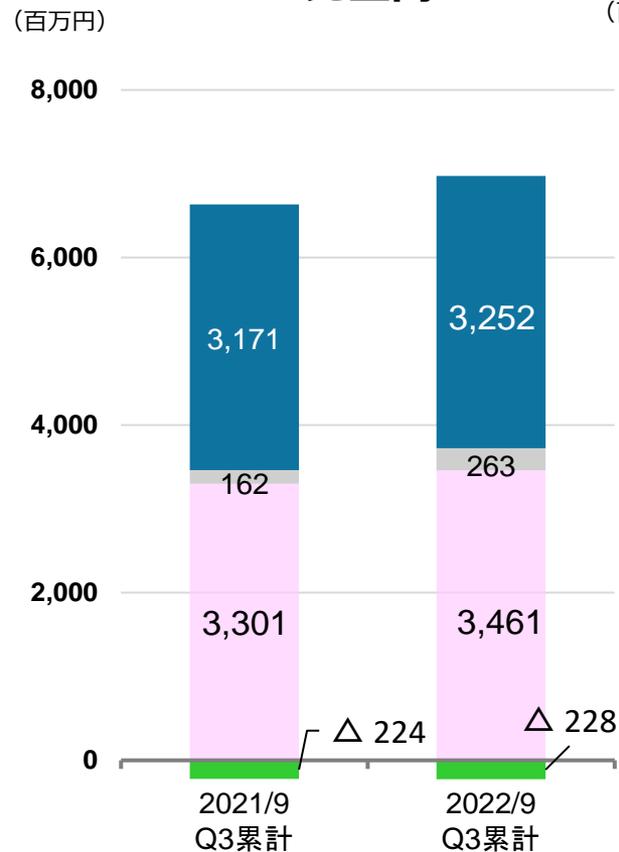
(単位：百万円)

報告セグメント	科目	2021/9期						2022/9期				前Q3比	前Q3 累計比
		Q1	Q2	Q3	Q3累計	Q4	Q4累計	Q1	Q2	Q3	Q3累計		
投資銀行事業	売上高	812	1,856	632	3,301	759	4,061	1,058	1,135	1,267	✓3,461	✓635	✓159
	売上総利益	499	1,492	335	2,326	399	2,725	574	507	773	✓1,855	✓438	✓△471
	セグメント利益	142	1,180	△47	1,274	28	1,303	198	112	259	✓570	✓307	✓△704
公共コンサルティング事業	売上高	62	56	43	162	80	242	108	92	62	✓263	19	✓101
	売上総利益	38	31	29	99	48	148	54	49	40	143	11	44
	セグメント利益	△2	0	△6	△9	6	△3	8	3	△13	△1	△6	8
エンタテインメント・サービス事業	売上高	1,223	1,007	939	3,171	935	4,106	1,181	997	1,073	3,252	133	81
	売上総利益	327	64	132	523	109	632	301	187	287	✓777	✓155	✓253
	セグメント利益	47	△203	△175	△330	△170	△501	36	△61	31	✓6	✓207	✓336
調整額 (セグメント間取引 消去又は全社費用)	売上高	△78	△66	△79	△224	△78	△303	△76	△76	△75	△228	4	△4
	売上総利益	△39	△30	△34	△103	△32	△136	△32	△32	△30	△95	3	8
	セグメント利益	△134	△188	△145	△468	△151	△619	△180	△156	△87	△425	57	43
連結P L計上額	売上高	2,020	2,854	1,536	6,410	1,696	8,107	2,272	2,148	2,328	6,749	792	338
	売上総利益	825	1,558	462	2,846	524	3,370	897	712	1,071	2,680	609	△165
	営業利益	53	787	△375	465	△287	178	62	△102	190	150	565	△314
関連事項			緊急事態宣言 (1都3県は 1/8-3/21)	緊急事態宣言 (東京都は 4/25- 6/20)		緊急事態宣言 (東京都は 7/12-9/30、 埼玉県は8/2 -9/30)			まん延防止等 重点措置 (東京都、埼 玉県は1/21- 3/21)				

- ・各セグメントの売上高は、セグメント間の内部売上高又は振替高を含めた売上高です。
- ・調整額（セグメント利益）（2022年9月期Q3累計は△425百万円）には、セグメント間取引消去（2022年9月期Q3累計は215百万円）及び報告セグメントに配分していない全社費用（2022年9月期Q3累計は△640百万円）を含む。全社費用は合理的な配分が難しいなどの理由により報告セグメントに帰属しない一般管理費です。

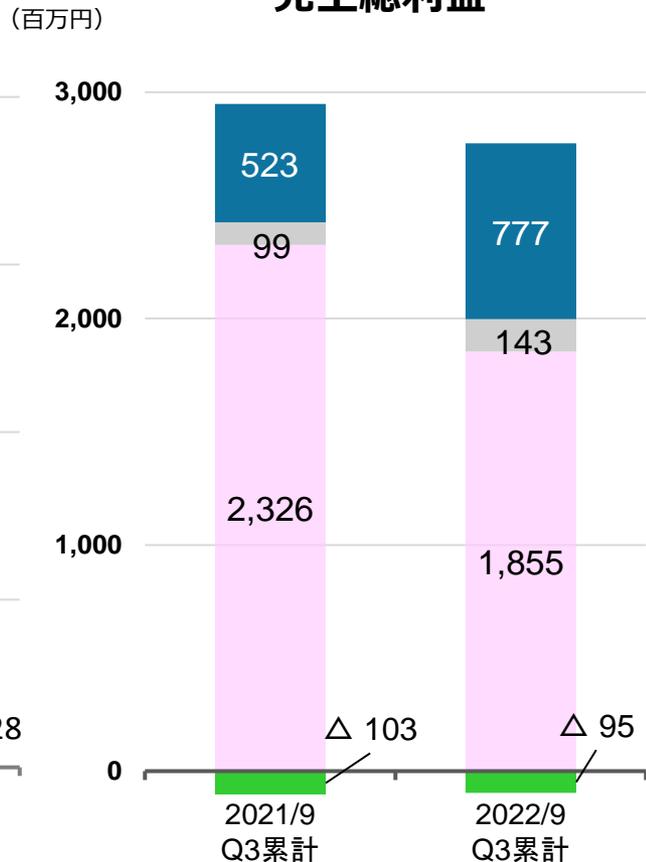
セグメント別業績 - 2

売上高



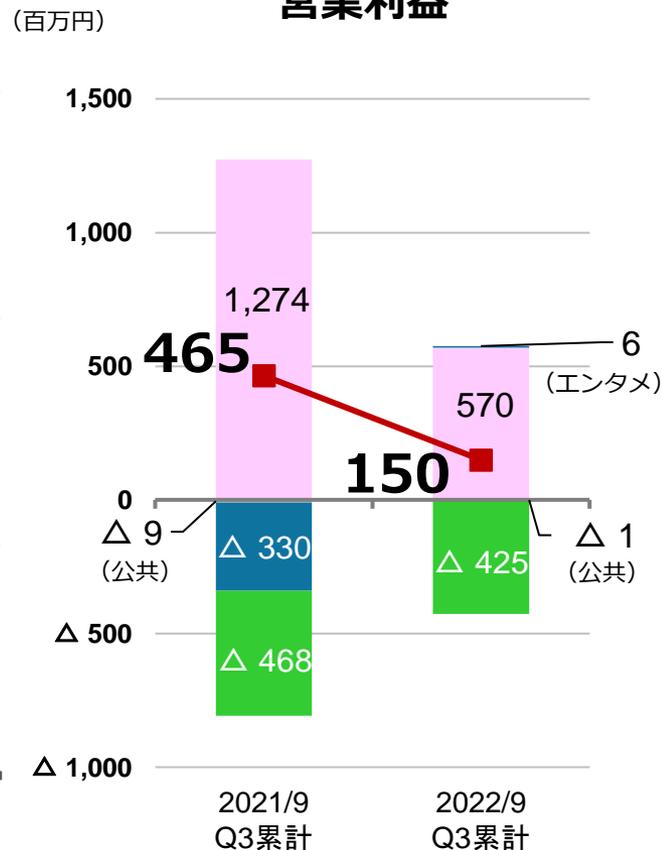
6,410
338百万円増 (5.3%増)

売上総利益



2,846
165百万円減 (5.8%減)

営業利益



314百万円減 (67.7%減)

(注) セグメント別内訳は、他のセグメントとの取引を消去しない数値を使用。

投資銀行事業

公共コンサルティング事業

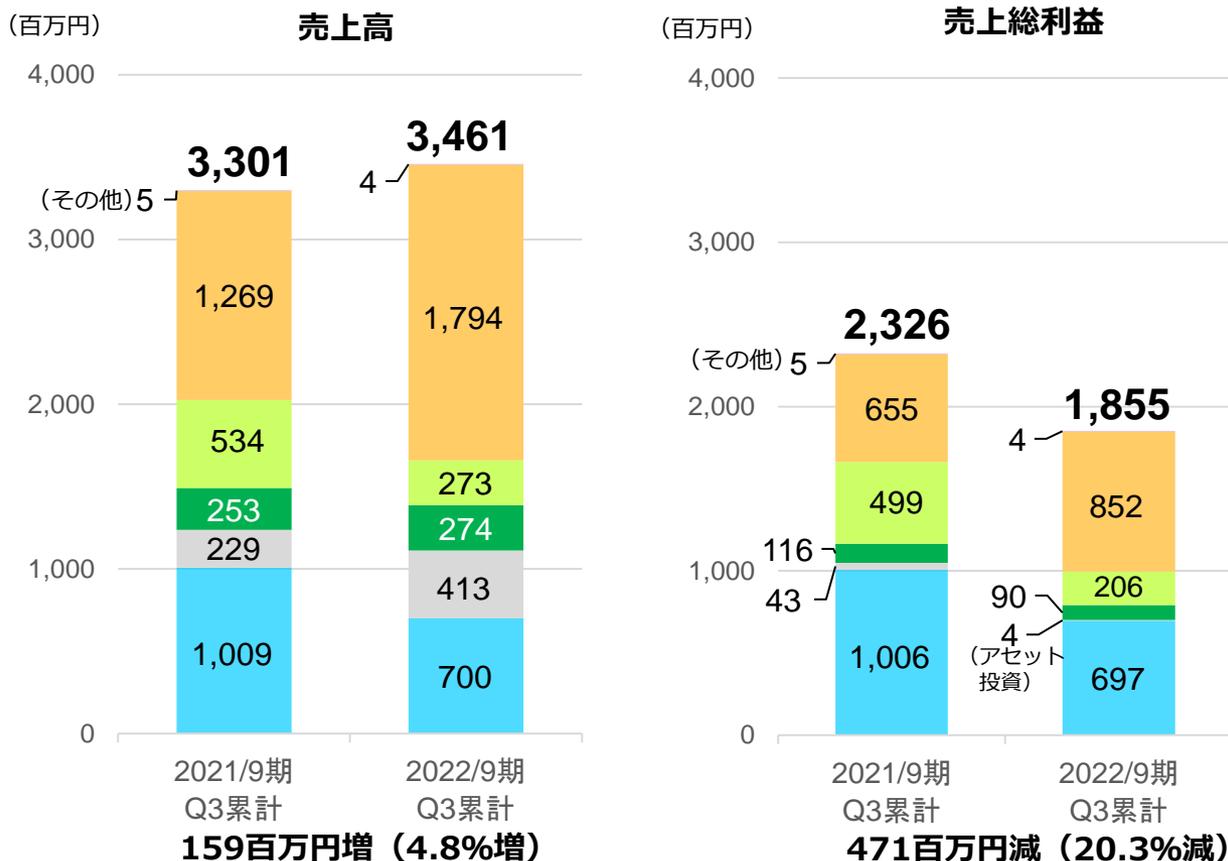
エンタテインメント・サービス事業

△ 全社費用または取引消去

投資銀行事業セグメントー業務別売上高、売上総利益

PE投資の案件取得が順調に進む。航空機AMの好調が続き増収。

- ・ **業務受託、PE投資** PE投資に係る案件組成と投資実行・回収が順調に進む。
- ・ **アセット投資** 不動産信託受益権売却が進み、増収。
- ・ **航空機AM** コロナ禍により、機体検査や機体返還などの技術サービスが、引き続き好調。増加する引き合いに対し外部委託を増やし対応。売上高41%増、売上総利益30%増。



- その他
- 航空機アセットマネジメント
- PE投資
- メッツアビレッジ
- アセット投資
- 業務受託 (アレンジ、アセットマネジメント、不動産仲介等)

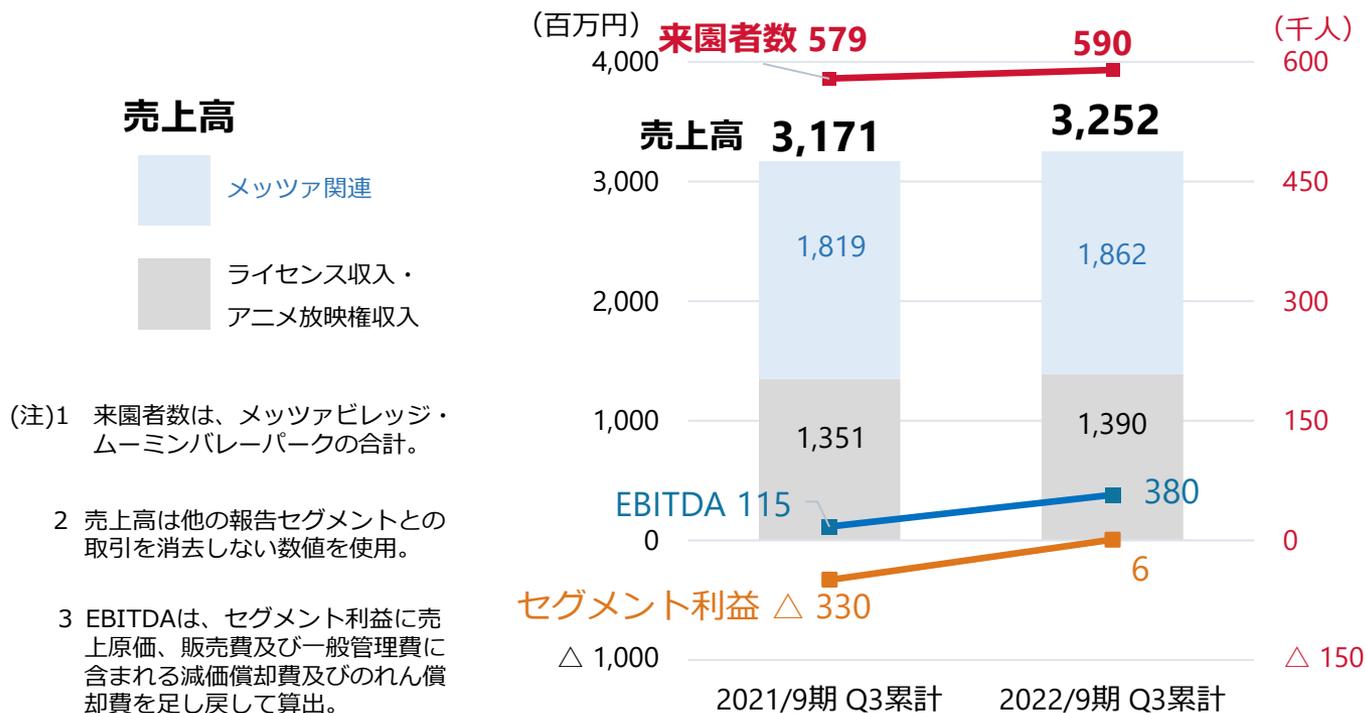
(注) セグメント間の内部売上高は、消去しない数値を使用。

エンタテインメント・サービス事業—業績等

メッツァ、ライセンスともに増収。売上高は前Q3累計比で81百万円増*。
メッツァの収益性改善と来園者数回復により黒字化。

* 収益認識会計基準等適用の影響を除くと145百万円増。

- メッツァ関連**
- ・ムミンバレーパークを12月にリニューアル。来園者ニーズに応えるコンテンツ・サービスに見直し。
 - ・来園者数は、行動制限緩和もあり回復。4-6月は前年同期比15.7%増。
 - ・ECサイト MOOMIN SHOPを3月1日にオープン。
- ライセンス関連**
- ・カジュアルウェアを中心とするファッション分野の伸長や付録付き雑誌の販売拡大などにより、ライセンシーのムミン商材の取扱が拡大。売上高は、前Q3累計比2.8%増。
 - ・ブランディング戦略を支える統一的CRMプラットフォーム構築準備を進める。



収益認識会計基準等適用による影響

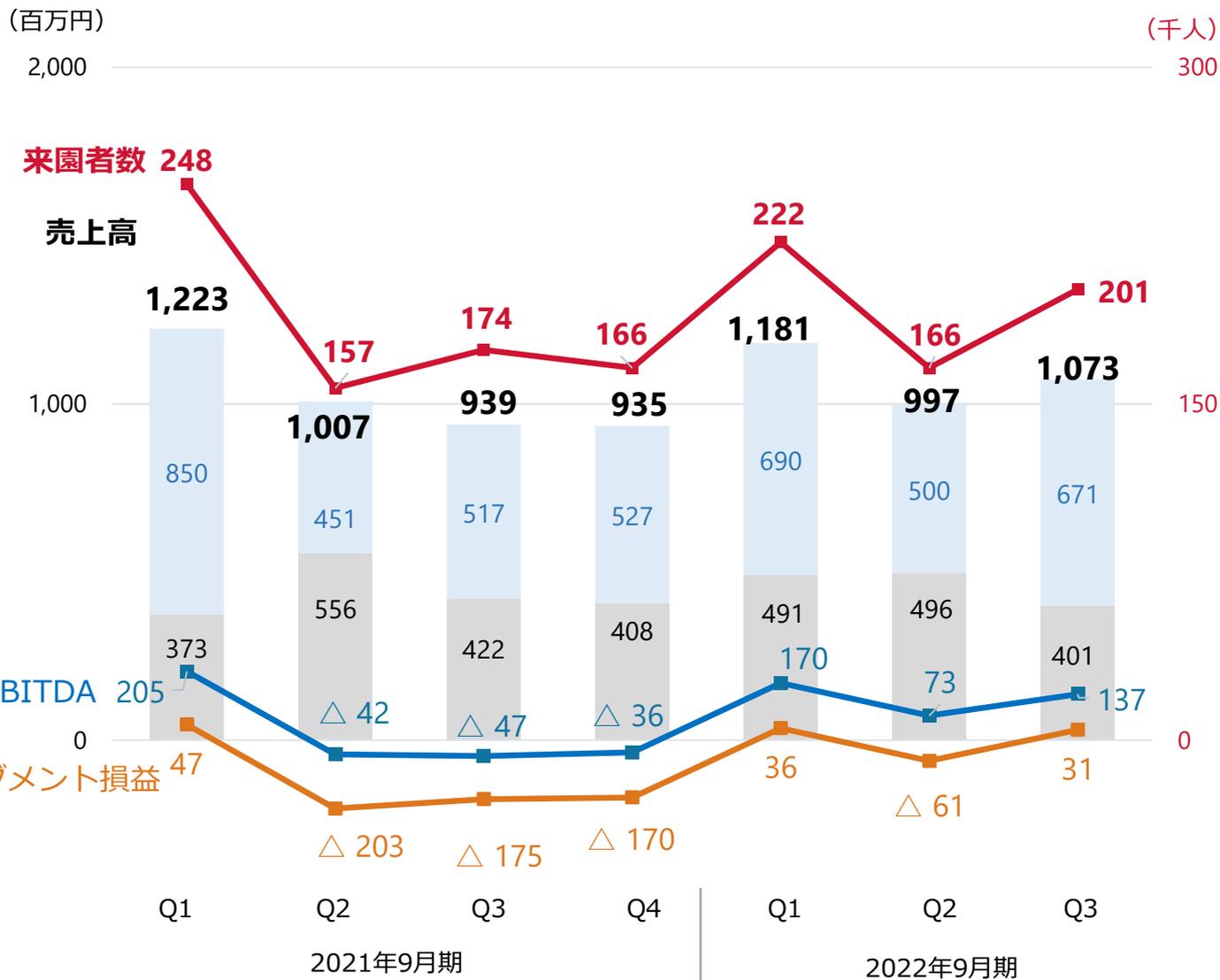
メッツァ関連の物販の一部が消化仕入のため、当第3四半期累計の売上高・売上原価は、従来の会計処理方法に比べてそれぞれ63百万円減少。
 (経過的な取扱いに従い、前第3四半期に遡及適用せず)
 セグメント利益への影響はない。

(注)1 来園者数は、メッツァビレッジ・ムミンバレーパークの合計。

2 売上高は他の報告セグメントとの取引を消去しない数値を使用。

3 EBITDAは、セグメント利益に売上原価、販売費及び一般管理費に含まれる減価償却費及びのれん償却費を足し戻して算出。

エンタテインメント・サービス事業—業績等（四半期）



(注)1 来園者数は、メッツァビレッジ・ムーミンバレーパークの合計。

2 売上高は他の報告セグメントとの取引を消去しない数値を使用。

3 EBITDAは、セグメント利益に売上原価、販売費及び一般管理費に含まれる減価償却費及びのれん償却費を足し戻して算出。

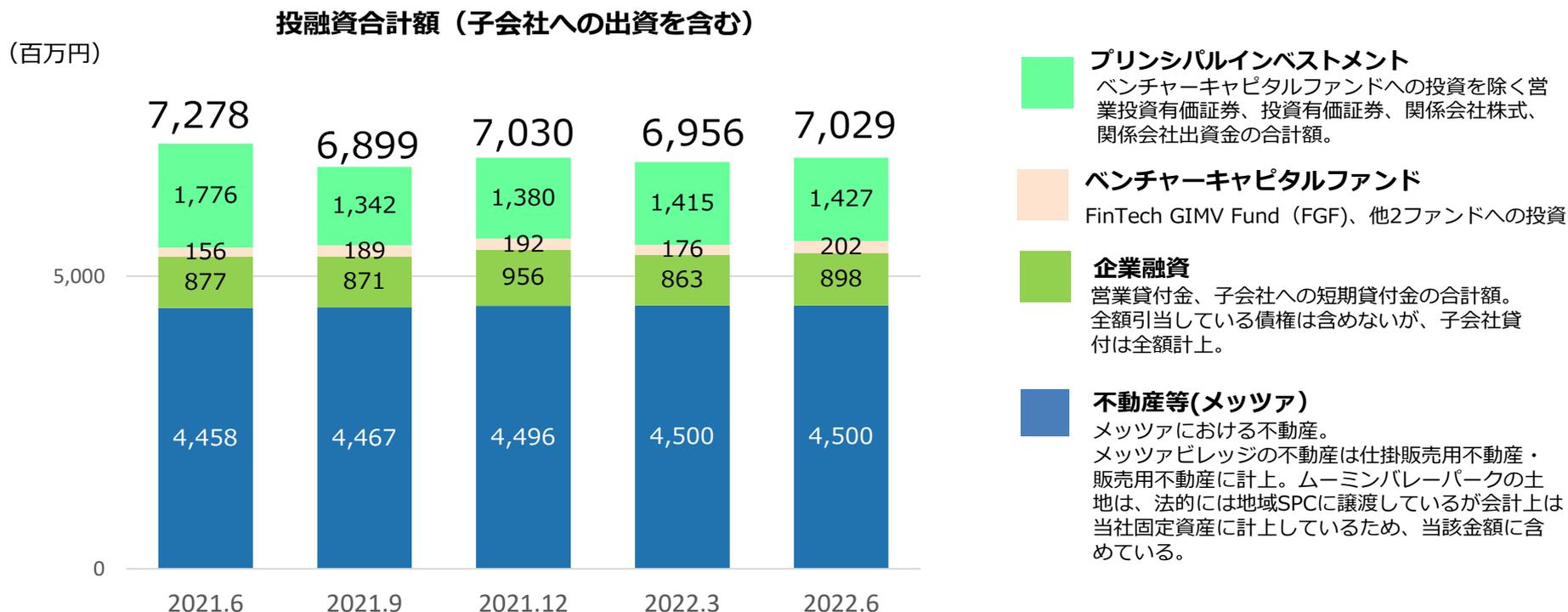
投融資残高の推移

2022年9月期第3四半期（2022/4～2022/6）の主な変動要因

プリンシパルインベストメント

アセット投資の回収による減少があったものの、プライベートエクイティ投資の回収に伴い投資ビークルが当該収益を取り込んだことや成長企業への新規投資により増加。

- (注) 1 投融資額は当社、aviner(株) (旧SGIインベストメント) の合計
(2021年6月分は、当社、FGT、aviner(株)の合計)
2 FGI、aviner(株)間の出資・貸付は、含めず。



受託資産残高の推移

フィンテックアセットマネジメント(株) (FAM)
 FGIキャピタル・パートナーズ(株) (FGICP)

ファンドのエグジット等により2022年3月末比13.3%減となるも、
 海外投資家の不動産投資等による受託増加により、2023年3月までに**500億円**を超える見込。

FAM ヘルスケア施設

- ・運用ファンドによる物件売却等により、2022年3月末比 5億円減。
- ・2022年11月1日払込の公募STOで組成されるファンドのアセットマネジメントを受託予定（ファンドは物件を25.1億円で取得予定）

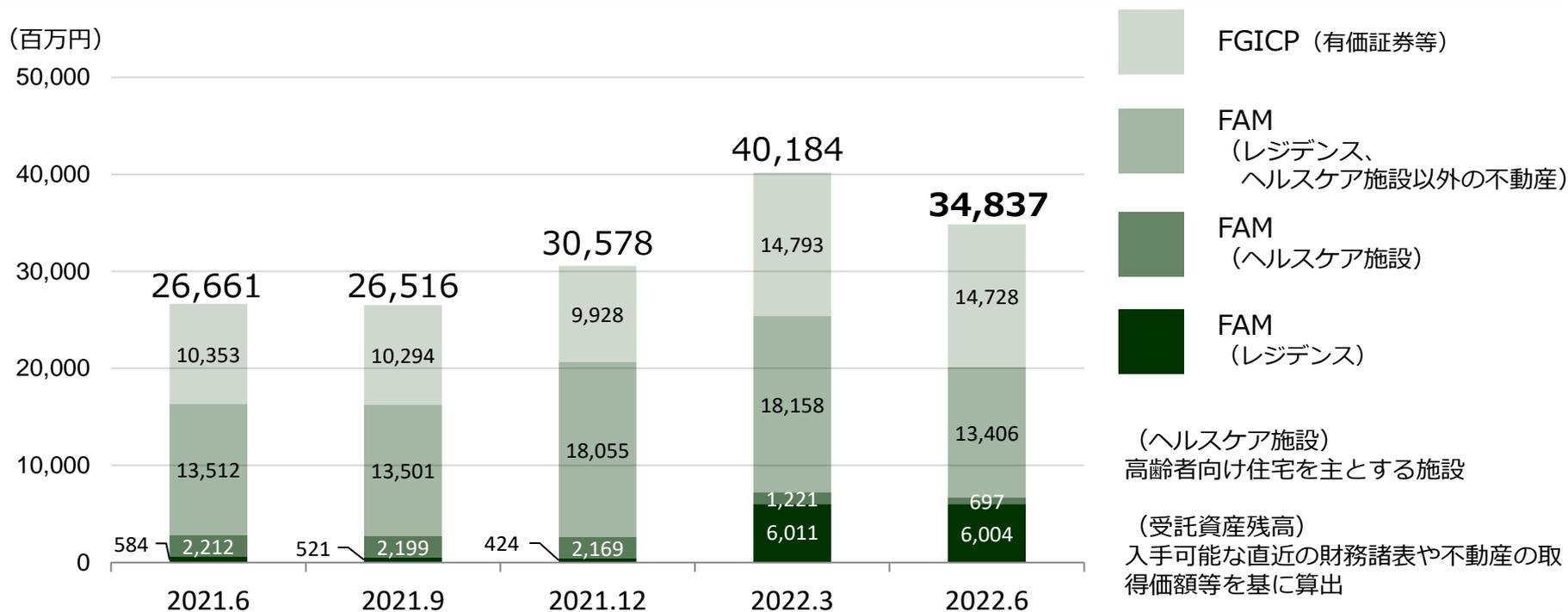
FAM レジデンス、ヘルスケア施設以外の不動産

- ・運用ファンドによる商業施設売却等により、2022年3月末比 47億円減。

FGICP 有価証券等

- ・運用ファンドが好調であったものの、再生可能エネルギー設備へ投資するファンドの一部償還等により、2022年3月末比0.6億円減。

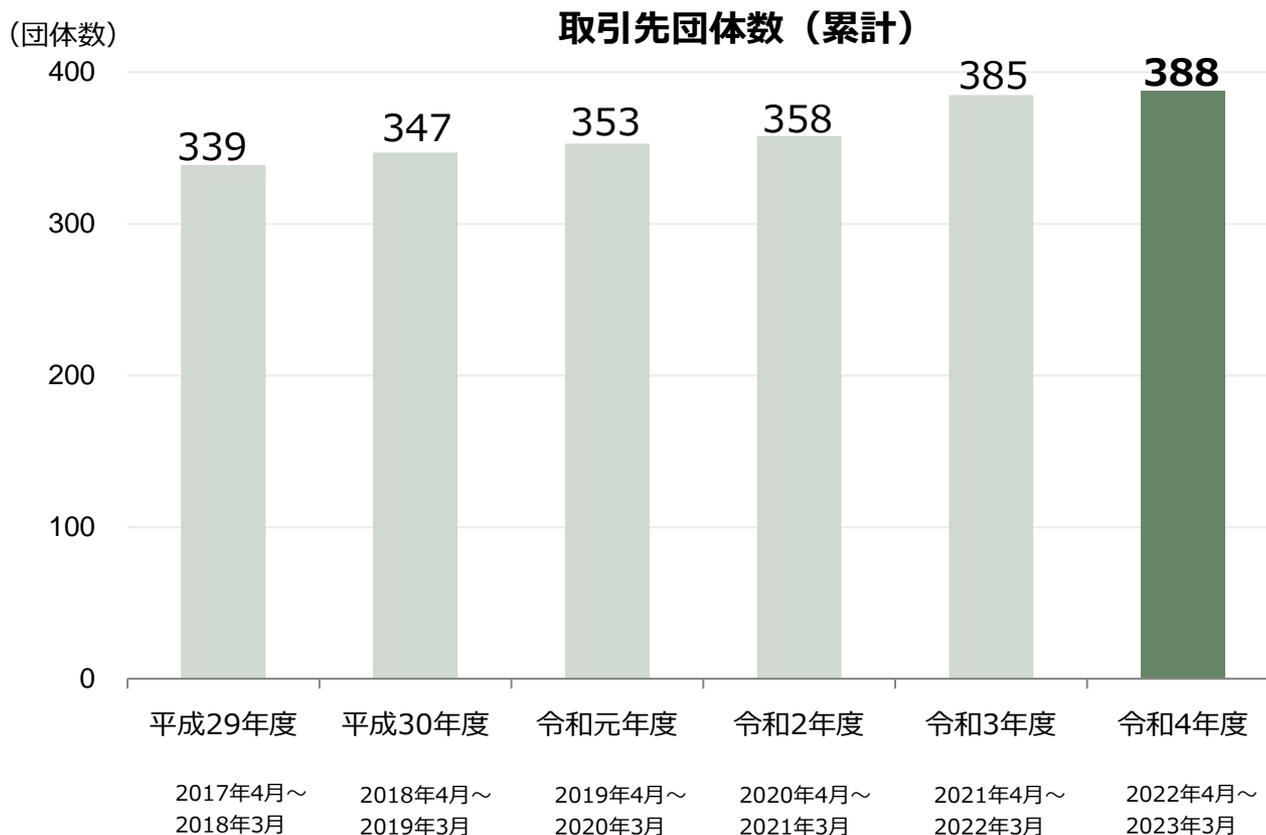
上記とは別に投資助言契約における顧客の資産額は906億円（FGICP、2022年3月末比41億円減）となる。
 （顧客の資産は、主に太陽光発電システム）



公共施設等総合管理計画改訂支援等により取引先拡大。

総務省が地方公共団体に公共施設等総合管理計画の見直しを求めたことにより、見直し支援業務の受託が増加。新規取引先の開拓が進み、令和3年度の取引先団体数（累計）は令和2年度と比べ27団体増加し385団体。（このうち財務書類作成支援業務について、「県」からの受託は4件増加し7件）

令和4年度の取引先団体数（累計）は3団体増加し、388団体。



メツアビレッジの更なる価値向上への取り組み

自然を活用したアウトドア事業を拡充

キャンピングカーレジャーやアウトドア需要の高まりを受け、メツアビレッジの自然を活用し、7月23日からアウトドア事業を拡充。4つのコンテンツを用意。

メツア公式サイトのアウトドアURL <https://metsa-hanno.com/metsa/outdoors/>

車中泊！埼玉西部エリアの新たな観光拠点
[「metsä RV PARK \(メツア RVパーク\)」](#)



テーブル設置イメージ

ボートに乗って湖の中心で過ごすプライベートタイム
[「metsä pier \(メツア ピア\)」](#)



丘の上から湖を臨むプライベート空間
[「Hygge Terrace \(ヒュッグテラス\)」](#)



ワンちゃんと一緒に手ぶらで湖畔BBQが楽しめる
[「UTE PILS BBQ \(ウーテピルス BBQ\)」](#)



連結貸借対照表

資産の部

	21年9月期	22年9月期 第3四半期	増減
流動資産	9,167,569	9,351,531	183,962
現金及び預金	2,379,230	2,254,298	△ 124,932
1 受取手形・売掛金	753,826	—	△ 753,826
受取手形・売掛金・契約資産	—	1,241,319	1,241,319
2 営業投資有価証券	1,042,651	913,911	△ 128,739
営業貸付金	455,415	405,115	△ 50,300
販売用不動産	4,038,343	4,042,526	4,183
商品	192,176	121,811	△ 70,364
その他	398,443	491,364	92,920
貸倒引当金	△ 92,518	△ 118,815	△ 26,297
固定資産	7,290,019	6,943,879	△ 346,139
3 有形固定資産	6,299,105	5,954,832	△ 344,273
無形固定資産	616,310	619,060	2,749
投資その他の資産	374,602	369,986	△ 4,615
資産合計	16,457,588	16,295,411	△ 162,176

1 航空機アセットマネジメント、PE投資に係る業務受託等による売掛金・契約資産が487百万円増加。

2 成長企業への投資、事業承継案件への投資を実行するも、ヘルスケア施設関連への投資の回収や子会社SPCの不動産信託受益権売却の進行により減少。

3 ムーミンバレーパークの建物、内外装等の減価償却により減少。

4 航空機アセットマネジメントの外部委託による買掛金が増加。

5 アセット投資案件に係る借入を返済。

6 ムーミンバレーパークの特殊内外装に係るリース債務の返済により、減少。

負債の部

(単位：千円)

	21年9月期	22年9月期 第3四半期	増減
流動負債	2,391,910	2,540,090	148,180
4 支払手形・買掛金	130,687	351,733	221,046
5 短期借入金	125,600	—	△ 125,600
1年内返済予定の長期借入金	393,194	484,901	91,707
未払法人税等	75,228	77,127	1,898
リース債務	247,203	253,264	6,061
賞与引当金	146,703	157,165	10,461
その他	1,273,293	1,215,899	△ 57,394
固定負債	6,626,556	6,337,209	△ 289,346
長期借入金	6,041,300	5,965,759	△ 75,541
6 リース債務	388,207	210,103	△ 178,104
繰延税金負債	64,885	18,590	△ 46,295
退職給付に係る負債	99,040	109,634	10,593
その他	33,122	33,122	—
負債合計	9,018,467	8,877,300	△ 141,166

純資産の部

株主資本	6,329,582	6,207,058	△ 122,523
資本金	6,462,099	6,471,266	9,166
資本剰余金	4,987,549	4,996,716	9,166
利益剰余金	△ 5,120,066	△ 5,260,924	△ 140,857
その他の包括利益累計額	△ 918	36,393	37,311
新株予約権	78,503	55,049	△ 23,453
非支配株主持分	1,031,953	1,119,609	87,656
純資産合計	7,439,120	7,418,110	△ 21,010
負債純資産合計	16,457,588	16,295,411	△ 162,176

連結損益計算書

	2021年9月期 第3四半期累計		2022年9月期 第3四半期累計		増減額	(単位：千円) 増減率	
		売上比		売上比			
売上高	1	6,410,861	100.0%	6,749,519	100.0%	338,658	5.3%
売上原価		3,564,453	55.6%	4,068,821	60.3%	504,368	14.1%
売上総利益		2,846,408	44.4%	2,680,698	39.7%	△ 165,710	△ 5.8%
販売費及び一般管理費	2	2,381,261	37.1%	2,530,517	37.5%	149,255	6.3%
営業利益		465,146	7.3%	150,180	2.2%	△ 314,965	△ 67.7%
営業外収益		68,395	1.1%	64,410	1.0%	△ 3,985	△ 5.8%
営業外費用		96,375	1.5%	100,573	1.5%	4,198	4.4%
経常利益		437,166	6.8%	114,017	1.7%	△ 323,149	△ 73.9%
特別利益		6,817	0.1%	16,478	0.2%	9,660	141.7%
特別損失		1,122	0.0%	1,362	0.0%	240	21.4%
税金等調整前四半期純利益		442,862	6.9%	129,133	1.9%	△ 313,728	△ 70.8%
法人税等合計		191,549	3.0%	84,537	1.3%	△ 107,012	△ 55.9%
四半期純利益		251,312	3.9%	44,596	0.7%	△ 206,716	△ 82.3%
非支配株主に帰属する四半期純利益又は 非支配株主に帰属する四半期純損失 (△)	3	△ 68,522	△ 1.1%	185,454	2.7%	253,977	—
親会社株主に帰属する四半期純利益又は 親会社株主に帰属する四半期純損失 (△)		319,835	5.0%	△ 140,857	△ 2.1%	△ 460,693	—

1

PE投資案件の組成・投資実行・回収が順調に進む。航空機AMが好調を維持し、アセット投資の回収も増加したことにより増収。メツァ関連の原価は低減するも、売上が拡大した航空機AMやアセット投資などに係る原価は増加。(収益認識会計基準等の適用により、当第3四半期累計の売上高及び売上原価は、従来の会計処理方法に比べそれぞれ63百万円減少。)

2

メツァではコスト削減が進む一方、その他の事業は事業拡大のための人員増強や業務の外部委託が増加したことにより、6.3%増。

3

ムーミン物語、ライセンス・アンド・ブランド、SGI及び飯能地域資源利活用合同会社の損益を非支配株主に按分。ムーミン物語の損失減、地域SPC及びSGIの利益増などにより、253百万円増加。

連結経営指標等の推移

		2017年 9月期	2018年 9月期	2019年 9月期	2020年 9月期	2021年 9月期	2022年9月期 第3四半期累計
売上高	(百万円)	7,182	3,689	9,175	6,841	8,107	6,749
売上総利益	(百万円)	1,626	2,261	2,944	2,313	3,370	2,680
営業利益又は営業損失(△)	(百万円)	△ 1,319	△ 1,072	△ 1,664	△ 992	178	150
経常利益又は経常損失(△)	(百万円)	△ 1,341	△ 1,227	△ 1,850	△ 1,135	115	114
親会社株主に帰属する当期純利益又は 親会社株主に帰属する当期（四半期）純損失(△)	(百万円)	△ 1,358	△ 820	△ 1,586	△ 1,186	130	△ 140
純資産	(百万円)	5,326	8,551	8,873	7,304	7,439	7,418
総資産	(百万円)	12,932	14,016	19,025	16,583	16,457	16,295
1株当たり純資産	(円)	29.64	39.31	37.03	31.12	31.47	31.02
1株当たり当期純利益又は 1株当たり当期（四半期）純損失(△)	(円)	△ 8.39	△ 4.79	△ 8.08	△ 5.90	0.65	△ 0.70
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	(円)	-	-	-	-	0.65	-
自己資本比率	(%)	37.1	52.2	39.1	37.7	38.5	38.3
自己資本利益率	(%)	△ 24.6	△ 13.5	△ 21.5	△ 17.3	2.1	-
株価収益率	(倍)	-	-	-	-	86.1	-
営業活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	△ 1,153	△ 2,978	△ 2,604	680	747	-
投資活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	△ 1,026	△ 2,008	△ 4,543	△ 282	△ 173	-
財務活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	2,937	5,771	5,710	△ 767	△ 360	-
現金及び現金同等物の期末残高	(百万円)	2,969	3,847	2,513	2,142	2,379	-
従業員数(連結) (外、平均臨時雇用者数)	(人)	143(27)	156(47)	167(262)	156(224)	149(209)	171(139)
従業員数(単体) (外、平均臨時雇用者数)	(人)	40(6)	38(5)	39(5)	28(6)	28(4)	30(4)

フィンテック グローバル株式会社 会社概要

本店所在地	東京都品川区上大崎3-1-1 目黒セントラルスクエア15階
設立	1994年12月7日
代表	代表取締役社長 玉井 信光
上場日	2005年6月8日
証券コード	8789 (東京証券取引所 スタンダード市場)
事業年度	10月1日から9月30日まで
事業内容	①投資銀行事業 ②公共コンサルティング事業 ③エンタテインメント・サービス事業
発行済株式総数	201,295,200株 (2022年6月30日現在)
単元株式数	100株
資本金	6,471百万円 (2022年6月30日現在)
連結純資産	7,418百万円 (2022年6月30日現在)
連結従業員数	171名 (2022年6月30日現在、臨時従業員含まず)

フィンテック / FinTech (登録5113746)・FinTech Global (登録5811521)・フィンテックグローバル (登録5811522)・FGI (登録5113748)は、フィンテック グローバル株式会社の登録商標であります。

免責条項

本資料は、当社およびFGIグループの2022年9月期第3四半期決算に関する情報の提供を目的としたものであり、有価証券にかかる売買、金融商品取引に係る契約等いかなる商品の勧誘をするものではありません。

本資料に記載されている、各種資料・文書には、当社またはFGIグループに関連する見通し、方針、経営戦略、目標、予定、事実の認識・評価などといった、将来に関する記述をはじめとする歴史的事実以外の事実を記載しているものが含まれていることがあります。これらの歴史的事実以外の事実（以下、「将来情報」ということがあります）の記載は、当社またはFGIグループが入手した情報に基づく、当該資料・文書の日付（または当該資料・文書に別途明示された日付）時点における予測、期待、想定、認識、評価等を基礎として記載されているに過ぎません。また、見通し・目標等を策定するためには、過去に確定し正確に認識された事実以外に、見通し・目標設定等を行うために不可欠となる一定の前提（仮定）を使用しています。これらの記述ないし事実または前提（仮定）については、その性質上、客観的に正確であるという保証も将来その通りに実現するという保証もありません。したがって、これらの記述ないし事実または前提（仮定）が、客観的に不正確であり、将来実現しないという可能性があります。その原因となりうるリスクや要因は多数あります。将来情報は、将来発生する事象、リスク、不確実性を内包する要因を含んでおり、そうした前提は、当社またはFGIグループの実際の業務・業績に著しい悪影響を及ぼす可能性があります。かかる要因には、日本国、米国、アジアあるいはその他の国・地域における経済状況の悪化、不動産価値または株価の下落、FGIグループの貸出先の産業分野における企業破綻の増加やその他問題の発生、当社の経営統合およびコスト削減期待の実現の困難化または遅延、競争の激化、FGIグループの業務に関わる法令規則の改正、FGIグループにとって不利益となる日本国経済その他の政策の変更が含まれます。

なお、将来情報に関する記述を含む資料・文書が本資料に記載されている間においても、当該将来情報は上記のとおり当該資料・文書の日付（またはそこに別途明記された日付）時点のものであり、当社は、それらの情報を最新のものに随時更新するという義務も方針も有しておりません。